

令和3年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
施 設 名	仙台市青年文化センター	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	15,643	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	3,178	(千円)
普及啓発事業	12,465	(千円)

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	せんだいダンスプロジェクト※	11/21, 12/12, 1/9 (以降中止)	講師：マニシア、木村 良、今 貂子, ほか	目標値	200 人
		日立システムズホール仙台 練習室 4(ワークショップ) / 交流ホール(成果発表会)		実績値	参加者数 のべ 83 名 ※成果発表は中止
2	50 歳から輝く ステージ 演劇 ワークショップ	12/1, 8, 1/12, 26, 2/9, 23	出演者：公募による 50 歳以上の市民 7 名 演出：西海石みかさ、ほか	目標値	参加者数 72 人 入場者数 40 人
		日立システムズホール仙台 交流ホール		実績値	参加者数 17 名 入場者 54 名
3、	障がいのある人とない人が創る 人形劇「SHIRO アトリエ&スタジオ」※	10/30, 11/20, 12/25, 1/15, 1/22, 2/19	ファシリテーター：佐竹真紀子、 しょうじこずえ 講師：人形劇団 ポンコレラ	目標値	参加者数 100 人 入場者数 50 人
		日立システムズホール仙台 アトリエ ほか		実績値	参加者数のべ 55 名 ※公演を中止したため 入場者数なし

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	学校訪問ミニコンサート	6月・10月・11月 全67回	出演：仙台フィルハーモニー管弦楽団	目標値	11,200名
		市内小学校		実績値	5036名
2	仙台市青年文化センター リニューアルオープン企画 「パフォーマンスフェスティバル」	2月26日(土) ・27日(日)	仙台国際音楽コンクールピアノ部門 出場者、劇団 短距離男道ミサイル、 ほか在仙アーティスト、公募出演者	目標値	400名
		仙台市青年文化センター (日立システムズホール仙台) 全館		実績値	入場者 2,942名 参加者 299名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当館は仙台市における舞台芸術文化の創造・発信の中核を担う施設として、「活動支援」「鑑賞支援」「交流・創造支援」、3つのミッションを掲げ事業を実施している。</p> <p><b>【人材養成事業】</b></p> <p>仙台でも関心・ニーズの高い社会包摂をテーマに組み立てた。「せんだいダンスプロジェクト」では未就学児家族とおよび幅広い年齢層、「50歳から輝くステージ 演劇ワークショップ」ではシニア、「障がいのある人とない人が創る人形劇『SHIRO アトリエ&amp;スタジオ』」では障がいのある方を対象とし、それぞれダンス、演劇、美術の分野で定期的・継続的に創作を行う場を設けることができた。</p> <p>感染拡大の影響で「ダンスプロジェクト」の一部は中断、「SHIRO アトリエ&amp;スタジオ」の発表も映像によるオンライン公開にせざるを得なかったが、多様な層の参加機会を創出する目的は概ね達成できたと感じている。</p> <p><b>【普及啓発事業】</b></p> <p>「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」は鑑賞支援を目的とし、当館を拠点とする仙台フィルハーモニー管弦楽団と協働した。感染拡大のため「学校訪問ミニコンサート」に切り替えて予算も大幅に変更し、当初予定の約45%である67校5,034名の児童にしか届けられなかったが、コロナ下で鑑賞機会を創出できた意味は大きい。</p> <p>「パフォーマンスフェスティバル」は活動支援を目的とした事業で、当初は当館のリニューアルに伴ったホール機能の強化・宣伝を目的としていたが、コロナ禍で活動機会が激減した実演芸術の担い手に対し活動の場を提供するコンセプトにシフトした。感染拡大で出演できなくなった個人・団体もあったが、おおむね予定通り開催できた。地域で展開されている幅広い分野の活動の成果に多くの市民が接する機会も創出できた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p><b>【人材養成事業】</b></p> <p>「50歳から輝くステージ」「SHIRO アトリエ&amp;スタジオ」では、劇場・音楽堂では主たる対象としてされてこなかった層の参加機会を創出でき、また「せんだいダンスプロジェクト」の「おどりラボ」では年代の間口を広げて明示した結果、10～80代の広い参加があった。潜在的ニーズが実感できたことで次の展開に進むことができる。</p> <p>このような社会包摂をテーマとした事業は単発では意味が薄く、継続していくことでその意義や手法が浸透していくものであり、今後も継続的な機会創出が必要である。またニーズ拡大にあわせて新たな手法の開発も必要であるため助成を頂くことで参加層の拡大や手法の多様化が可能となる。</p> <p><b>【普及啓発事業】</b></p> <p>「学校訪問ミニコンサート」では、設定した実施可能数（67校）を上回る鑑賞希望（90校超）が寄せられた。コロナ下においても子どもに対する芸術鑑賞機会が求められており、今後も継続する意義を感じた。経済的意義としては、コロナ下で活動機会の減った仙台フィルに演奏依頼ができたことで、地域拠点のプロ芸術団体を経済的側面から支える一助ができたと感じている。</p> <p>「パフォーマンスフェスティバル」では出演者公募に想定以上の申込みが寄せられるなど、コロナ禍で減少した文化芸術活動への参加機会が求められていることを実感でき、機会づくりとして成果を上げることができた。今後も市民の活動・発表機会を創出していくことは劇場・音楽堂の文化的・社会的役割であると考えため、同様の取り組みを発展させていきたい。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【人材養成事業】

「せんだいダンスプロジェクト」の「ダンスのいりぐちプログラム」では「参加者のうち 20 代以下の割合／55%以上」という指標を掲げて実施し、参加者のうち 20 代以下の割合 60%であり、目標値 55%以上を達成した。

「踊らないワークショップ」では 10 代から 80 代の方までの 17 名の応募があり、多世代が豊かなコミュニケーションを育む場を創出した。参加者から「自分の周りには同年代の人しかおらずとてもせまい環境にずっといたが、今回このプロジェクトに参加する人は様々な年代の人がいて、また、様々な感性をもった人がいてとても刺激された。」といったコメントがアンケートで寄せられた。

「50 歳から輝くステージ」のアンケートでは、「新しい創造的なスキル（身体、ことばなどの表現等）を学ぶことができましたか？」という質問に対する「はい」の回答が 6 名（参加総数 7 名）。「発想力等の脳の活性化や動きの鈍い私に瞬発力や全身運動を通してワクワク感や楽しさと呼び起こしてくれた」など刺激を受けての好意的なコメントもいただいた。また、「今回参加して、もっと創造的（クリエイティブ）な活動をしたいと思いましたか？」についても「はい」の回答が 6 名で、「自分の時間がとれて 目的に合えば何でものぞいてみたいです」など次への意欲を示す回答があり、少人数のプログラムではあったが参加ニーズを掘り起こせたと考えている。

「SHIRO アトリエ&スタジオ」では指標達成評価に該当するアンケート設問を実施しなかったが、家族や介助者より「私たち親子にとって刺激をいっぱいもらえる大切な場になっています。来年度も参加したいです」「人形劇は外に出るきっかけになりました」「アトリエに通えているのは、自分が唯一認められる場所で、好きな絵に向き合える時間なのだと思います」など各参加者にとって貴重な機会である、今後も取り組みたいという旨のコメントをいただき、事業の有効性を実感した。一方、「障害者の文化芸術の活動がどこでいつやってるかわかりません」という声もあり、有効性をさらに高めるためには広報上の工夫も必要だと感じた。

「事業評価委員による評価」の「A」以上の評価は、実際に鑑賞していただけたのが「50 歳から輝くステージ」のみであり、50%であった。上演作品としては不十分だったのではないかという指摘もあったが、参加と発表／鑑賞のどちらに重きを置くかによって評価がかわる部分でもあるので今後の課題としたい。

#### 【普及啓発事業】

オーケストラ鑑賞会として市内の小学 5 年・中学 1 年全員の 11,200 人を対象としていたが、新型コロナウイルス対策のため、学校訪問ミニコンサートに変更し、公募により選ばれた 67 校の小学 5 年生を対象として 5,034 人（約 45%）にとどまった。年度当初に鑑賞会として想定した人数の半分ではあるが、前年度も実施した「学校訪問コンサート」は 16 校 1,241 名だったので、その 4 倍近く鑑賞人数を拡大できた。

「パフォーマンスフェスティバル」は、来場者を対象にしたアンケートの結果では満足度は 90%を超え、「来年以降も継続して実施を希望する」という声が多数見られた。出演者を含む事業の参加者は 299 名で、その多くが施設を練習で日常的利用するユーザーであり、事業を通して利用者間の交流を深められた。参加者からは「2 回目も開催企画があるとお聞きしました。タイミングがあれば参加できればとメンバーで話していました」など、次回に対する意欲的なコメントもいただき、このような機会創出の有効性と継続の意義を感じた。

「事業評価委員による評価」は「パフォーマンスフェスティバル」のみが評価対象で、「A」以上の割合は 93.4%であった。一見高評価ではあるが、委員の鑑賞できるスケジュール等の問題により、評価対象とするステージの数や種類が不統一にならざるを得なかったため、参考数値としたい。市民の参加機会創出というコンセプトは全員からご評価をいただいた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【人材養成事業】

###### ●「せんだいダンスプロジェクト」

「ダンスのいりぐちプログラム」は月1回のペースでワークショップを実施し、各回の実施後は講師の撮影した練習動画を参加者に公開して自宅で練習できる工夫を行ってモチベーション保持を図った。

「踊らないダンスワークショップ」は施設利用者の比較的少ない2月に実施することで、余裕をもったスケジュールを組むことができ、ワークショップの内容を充実させることができた。

●「50歳から輝くステージ」…参加者間のコミュニケーションを深めるために必要な実施回数は確保できていたが、有観客での上演を想定した作品の創作という側面においてはもう少し長期のスケジュールを組んだ方が有効だったかもしれない。

●「SHIRO アトリエ&スタジオ」…感染拡大により成果発表の日程や方式を当初の計画から変更したため、事業終了が年度末ギリギリとなり、進行が慌ただしくなってしまったのは反省点である。

##### 【普及啓発事業】

●「学校訪問ミニコンサート」…早い段階で学校訪問の形式に切り替えたことで滞りなく実行することができた。

●「パフォーマンスフェスティバル」…準備期間を十分にとりつつ、参加者との一過性でない関係性を築きながら実施することができた。実施前に参加者やスタッフを集め宣材写真の撮影会や見学を行い、一部の参加者にはコロナ禍での活動状況についてインタビューを行うなど、準備段階から企画に参加してもらえ工夫をした。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【人材養成事業】

●「せんだいダンスプロジェクト」…「ダンスのいりぐちプログラム」の成果発表は感染拡大防止のため中止となったため、当初計画は実施できなかった。

●「50歳から輝くステージ」…実際の制作を進める過程で、当初想定より半額程度の規模となった。成果発表を普及啓発事業の「パフォーマンスフェスティバル」に合わせて実施することで、舞台費の削減を図った影響もある。その分映像収録など事業のアーカイブを目的とした用途に経費をかけることができた。

●「障がいのある人となない人が創る人形劇『SHIRO アトリエ&スタジオ』」

前述のとおり普及啓発事業の「パフォーマンスフェスティバル」に合わせた成果発表は見送ることとなり、当初の計画にはなかった舞台費の追加等があった。だが、当初想定程度の予算で納めることができた。

##### 【普及啓発事業】

###### ●「学校訪問ミニコンサート」

編成がオーケストラからカルテットになる等の事情で事業の規模が縮小した。当初予算と同額で訪問予定を組む可能性もあったが、演奏者の予定等から検討し、当初規模の半分に収めることとなった。

###### ●仙台市青年文化センターリニューアルオープン企画 「パフォーマンスフェスティバル」

参加者の多くが市内在住のアマチュアの団体となり、出演者も当初想定とは変更となったため、事業の規模に対し謝金や旅費といった経費は削減された。また、事業費の大部分を占める舞台費について、人員の配置や仕込みのスケジュールに無駄がないよう精査し、適正人数で手配するよう努めた結果、抑えることができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【人材養成事業】

##### ●「せんだいダンスプロジェクト」

ダンスや身体表現の経験の有無を問わず、多世代と一緒に創作・自己表現のできる場を創出することができた。仙台市内で活動する表現者と、外部から招聘した講師とが会うことで、地域性や価値観の違いを超えて普遍性のある表現の場を作り出すことができた。コンテンポラリーダンスを扱う施設や機関が仙台市内に少ない状況で、幅広い世代を対象とした表現の場、能動的な鑑賞の場を作り出したことの意義は大きいと感じている。

##### ●「50歳から輝くステージ 演劇ワークショップ」

参加者の個々の人生を丁寧に聴き取り、オムニバス形式の一つの物語に紡いでいく作業をじっくり丁寧にを行うことで、参加者にとって当館が「安心できる自分の居場所」であり、「様々な人生を追体験できる場所」と捉えてもらうことができたように思う。アクティブシニアの年代に差し掛かった方々も安心して集える場所として、地域の文化拠点としての可能性を発揮できたように思う。

##### ●「障がいのある人となない人が創る人形劇『SHIRO アトリエ&スタジオ』」

多機能施設ならではの利点を生かし、参加者が落ち着いて創作に打ち込める最適な施設（空間）を調整することができ、自分が好きと思ったことやその時々感情を素直に表現できる環境をつくることができた。

成果発表に向けた創作をワークショップで行っていたが、発表内容には柔軟性を持たせ、参加者のその日の気分や表現したいことによって演出も変更する手法を採用した。急な演出の変更にも臨機応変に対応できたのは、熟練した舞台職員が常駐している当館ならではの特性であることに改めて気づかされた。

#### 【普及啓発事業】

##### ●「学校訪問ミニコンサート」

今回はホールの特性を活かしたコンサートを実施することはできなかったが、学校訪問コンサートに変更したことで、物理的にも心理的にも近い距離感で本格的なクラシックの演奏に親しんでもらえる場をつくることができた。仙台フィルハーモニー管弦楽団が当館を拠点としており、状況に応じて柔軟に相談できる関係を長年にわたって構築してきた成果が訪問コンサートに生きたように感じている。

参加児童にとって、演奏だけでなく楽器の仕組みや演奏者の細かい動きも関心を引くものであったようだが、それは近距離で行う演奏会ならではの効果であったかもしれない。ホールで聴くだけでなく、アウトリーチ事業として身近な場所、近い距離で聴いてもらうことの意義も感じられたので今後に生かしていきたい。

##### ●「仙台市青年文化センターリニューアルオープン企画 「パフォーマンスフェスティバル」

当館を日頃利用する団体と協力して事業を構築する過程は、地域に根差した劇場・音楽堂である当館だからこそ実現できたことであり、貸館等を通して顔の見える関係性を構築できていたことが事業の成功に結び付いたと考えている。また、通常の施設利用時には経費面や人的資源において実現しづらいこともあるが、本イベントでは当館の舞台スタッフがサポートすることで実現できた演出もあり、利用者の経験値アップにもつながっていたように感じた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### 【人材養成事業】

#### ●「せんだいダンスプロジェクト」

地域の様々な世代と一緒に活動し、ダンスをとおしてコミュニケーションを図る場を継続的に設けることで、参加者だけでなくその家族や周りの方にも、表現活動に参加することを身近なこととして認知してもらうことができた。

それにより表立ってはいなくとも、地域の実演芸術を支える人材の増加につながっている。

#### ●「50歳から輝くステージ 演劇ワークショップ」

アクティブシニアの自己表現の場と居場所の創出ができたことに、まず大きい意義があった。また、年齢を重ねても新たなことに挑戦する姿を鑑賞者と共有できたことも価値があり、地域の文化拠点としてこれからの文化芸術参加のありようのひとつを提示できたと考えている。

#### ●「障がいのある人となない人が創る人形劇『SHIRO アトリエ&スタジオ』」

創作から発表まで長期間活動の伴走をすることで、地域の障がいのある方の表現活動をサポートできたことに意義があった。当館スタッフも学ぶことが多く、この経験を地域の文化活動支援に活かしていける部分があると感じている。

また、本事業では障がいのある方となない方が一緒に活動したが、文化芸術を通して多様な立場の人たちが関わる体験をした。文化芸術の持つ力を実感していただくとともに、日常に持ち帰ることのできる多様性の感覚を得ていただいたことに意義があると感じている。

### 【普及啓発事業】

#### ●「学校訪問ミニコンサート」

できるだけ市内の広範囲の学校から訪問先を選出し、芸術鑑賞機会の少ない地域の小学生が本格的なクラシック音楽に触れられる機会を創出した。演奏者にとっても、普段の活動場所以外で観客と近い距離で演奏する機会を得る機会となった。

#### ●仙台市青年文化センターリニューアルオープン企画 「パフォーマンスフェスティバル」

コロナ禍で活動の機会が激減した実演芸術の担い手が活躍できる場を創出することで、地域の文化芸術を支える基盤としての劇場・音楽堂の役割を可視化することができた。

また来場者アンケートでは「今回は鑑賞だけの参加だったが、次回は仲間と一緒に公募ステージに出てみたい」という声もあり、パフォーマンスする市民の姿を通して、参加意欲を刺激できたという意義もあったと感じている。



## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【人材養成事業】

##### ● 「せんだいダンスプロジェクト」

参加者や講師を入れ替えながらも継続していける体制が運営側に構築されており、講師からアシスタントへのノウハウの継承も事業を通じて行われている。また、講師や協力団体と実施回ごとに成果の検証を行っており、改善を重ねながら事業を発展していける見通しができている。

##### ● 「50歳から輝くステージ 演劇ワークショップ」

##### ● 「障がいのある人となない人が創る人形劇『SHIRO アトリエ&スタジオ』」

共催団体との間で組織を超えたノウハウの共有や蓄積が行われており、事業の持続的な発展が期待できる。また、活動の様子や成果発表を観た方が「次回は自分も参加してみよう」という意欲をみせており、鑑賞者から参加者への循環による事業の持続・展開が期待される。

#### 【普及啓発事業】

##### ● 「学校訪問ミニコンサート」

訪問コンサートを経験した児童にホールでのコンサートにも来場してもらえるような工夫を重ねていくことで、子どもたちを含めた若い世代の鑑賞人口の増加につなげていけるのではないかと考えている。

##### ● 仙台市青年文化センターリニューアルオープン企画 「パフォーマンスフェスティバル」

施設の管理部門と事業部門が連携して企画進行を行う仕組みが本事業を通して構築されたことで、当事業団の組織体制の強化につながった。また、関係団体との課題の共有を通して、事業そのもののビジョンの明確化だけでなく、地域の劇場・音楽堂が担うべき役割を改めて確認することができた。

---  
以下は【人材養成事業】【普及啓発事業】に共通した内容として記述する

#### ■計画 Plan

前年度事業の振り返りをもとに、対象、コンセプトなどから事業立案・スケジュール設定を行った。

#### ■実行 Do

計画をもとに事業実施。進めながら改善できる部分は行った。

#### ■検証 Check

外部人材による事業評価モニターを実施し、事業の効果や影響、今後の発展可能性について検証を行った。内部でも振り返りを十分に実施した。（事業途中でも検証→改善可能なものは随時実施）

#### ■改善 Action

外部の事業評価および内部振り返りを通して具体的に事業改善を図った。